

学校法人比治山学園
比治山大学短期大学部
機関別評価結果

平成 27 年 3 月 12 日
一般財団法人短期大学基準協会

比治山大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 比治山学園
理事長	間所 了
学 長	二宮 皓
A L O	寺田 勝彦
開設年月日	昭和 41 年 4 月 1 日
所在地	広島県広島市東区牛田新町四丁目 1-1

設置学科及び入学定員（募集停止を除く）

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		100
総合生活デザイン学科		100
美術科		70
	合計	270

専攻科及び入学定員（募集停止を除く）

専攻科	専攻	入学定員
専攻科	美術専攻	15
専攻科	栄養専攻	8
	合計	23

通信教育及び入学定員（募集停止を除く）

なし

機関別評価結果

比治山大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 27 年 3 月 12 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 25 年 6 月 18 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」という建学の精神・理念は、ウェブサイトをはじめ各種印刷物で公表し、学生には入学式学長式辞で知らせ、ガイダンスやオリエンテーションにおいて具体的な説明が行われている。

各学科の教育目的は建学の精神・理念に基づき明示され、それに基づき学科の学習成果は示され、学内外へ表明され、定期的に点検が実施されている。

学習成果を量的・質的データとして測定する仕組みが学科ごとに作られ、学習成果の可視化がなされ、到達目標型学習システムの構築が目指されている。各種法令の改正に合わせて教育課程の改訂等に対応し、法令順守に努めている。

学習成果の査定については、アンケート調査も各種実施され、教育の向上・充実のための PDCA サイクルを構築しようとしている。各種アンケート調査の実施、授業改善事例報告書の作成には全教員が関わり、教員研修会（FD）において活用している。運営戦略本部を設置し、その下に比治山大学評価委員会を置いて点検・評価活動を実施し、自己点検・評価及び第三者評価に取り組む体制を強化した。また、相互評価にも積極的に取り組み、教育内容の充実につなげている。

学位授与の方針は学科ごとに明示され、学習成果にも対応している。カリキュラムは、3 学科共通の比治山ベーシックと教養教育からなる共通教育と各学科の専門教育から構成され、学位授与の方針に対応している。学習成果にも対応したカリキュラム・マップも作られ、教員は資格・業績に応じて配置され、教育課程の見直しも教学委員を中心に行われている。

学習成果は、学科の教育目標に示すほか、講義概要に到達目標等を分かりやすくしかも明確に記載されている。学生は学習成果の可視化によって自分自身のスキルを随時確認でき、授業担当教員とクラス担任であるチューターが、状況によってはウエルネスセンター職員等が連携して学生の学習面、生活面への支援を行っている。

学生支援については、「学生情報システム（Hi! way）」を活用してチューター、学生支援室、キャリア支援室などと情報を共有している。就職支援は、チューター、学科

(キャリアセンター運営委員)、キャリアセンターが連携しながら行っている。

入学者受け入れの方針については、大学案内、学生募集要項に明示され、この方針に従って入学試験が公正かつ厳正に行われ、合格者には入学前教育の各種プログラムが用意され、入学後のオリエンテーションのほか、学科ごとの学外オリエンテーションも用意されている。

短期大学設置基準に基づき各学科の教員組織が編成され、教員の採用、昇任に関しては規程に基づき適正に行われ、多様な雇用形態により、教育研究の活性化・高度化を実現している。

専任教員の研究活動については、外部研究費等を獲得し成果もあがっており、ウェブサイト公表されている。事務職員の責任体制については、規程において事務分掌や職制が明確化され、職員研修会（SD）及び職員研修発表会のほか、人事考課制度を導入し組織の活性化と個人の力量アップを図っている。

校地・校舎は短期大学設置基準を満たし、施設設備についても演習や実験・実習・実技室は充実し、機器備品や物品も整備している。定期点検による安全管理を行い、危機管理マニュアルを作成している。学内 LAN、マルチメディア演習室、情報処理演習室、CG 演習室が整備され、学内 LAN を使った様々な授業が展開されている。教員は「学生情報システム（Hi!way）」から学生の成績等を把握し、学生支援を行い、学生も履修登録や成績の確認を行うことができる。

学校法人全体・短期大学部門共に財政状況は健全な範囲で推移しており、教育研究経費比率も適正である。

理事長は、建学の精神に基づき理事会や経営会議においてリーダーシップを発揮し、学長は規程に基づき任命されている。学長を本部長とする運営戦略本部では、戦略的な課題についての企画立案及び調整を行い、教授会の審議において説明を行い教職員への周知も図っている。教授会は、審議機関としての機能を適切に果たしている。

監事は、監査規程に基づき「業務監査」と「財務監査」に区分して適切に監査を行っている。評議員会は、理事定数の 2 倍を超える評議員で構成され、理事長の諮問機関としての機能を適切に果たしている。

中期計画に基づく年間事業計画及び予算は評議員会に意見を求めた上で理事会で議決され、関係部門に指示している。日常的な出納業務、計算書類、財産目録等、資産管理と運用は適正である。財務情報及び教育情報はウェブサイトにて公開・公表されている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質保証を図り、短期大学の主体的な改革・改善を支援することにある。そのため、本協会では、短期大学評価基準に従って判定される前述の「機関別評価結果」や後述の「基準別評価結果」に加えて、当該短期大学の個性を尊重し、その向上・充実を図る観点から以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

本協会は当該短期大学の以下の事項について、高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らし、優れた成果をあげている試みや特長的な試みと考える。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ C 自己点検・評価]

- 平成 22 年度に金城大学短期大学部美術学科と美術科が、平成 24 年度には京都光華女子大学短期大学部こども保育学科・ライフデザイン学科と幼児教育科・総合生活デザイン学科が相互評価を実施し、全ての学科で相互評価を実施した。他短期大学の状況を詳細に見学し、忌憚のない意見交換を行い、教育内容充実に多くの示唆を得ている。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

[テーマ A 教育課程]

- 幼児教育科では、学習到達度指標における 12 のスキルの達成度を、教員の到達度評価・GPA 評価及び各学生の自己評価を基に、「学生情報システム (Hi!way)」のプロファイル上に可視化している。また、クラス担任であるチューターが学習上のアドバイスなどをコメント欄に記入し、改善学習を促している。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 幼児教育科では教員と学生で幼児教育研究会を組織し、様々な行事を企画するとともに機関誌『和顔愛語』を発行し、学科の教育課程に係る研究内容や授業改善等の教育実践例も発表されており、師弟同行の豊かな教育環境が作られている。

[テーマ B 物的資源]

- 幼児教育科ではバーチャル保育室、人形劇等を行う図工色彩実習室など、総合生活デザイン学科では給食経営管理実習室、実務演習室など、また美術科では陶芸実習室、染織実習室、映像・アニメーション実習室等の実習室が充実している。

[テーマ C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

- 「学生情報システム (Hi!way)」により、学生はシラバスの閲覧、履修登録、授業の出欠や成績の確認を行うことができ、教員は履歴、履修、成績、単位取得、登録した授業への出席状況、適性検査結果などを把握し、必要に応じて指導を行うことができるようになっており、学生の就職活動状況についても情報の共有化を図ることができている。幼児教育科では学習成果を可視化したポートフォリオが機能している。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

[テーマ B 学長のリーダーシップ]

- 「比治山大学・比治山大学短期大学部中期総合プラン」が作成され、建学の精神・理念に基づくミッションやビジョンを明らかにし、大学・短期大学の基本方針や行動目標、行動計画を定めている。その中心は「学生視点に徹した教育の推進」であり、「学生の自己成長と人間力の形成を促す支援の充実」である。さらにこのプランに沿って、到達目標型の学習システムなどの教育改革が取り組まれている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は以下に示す事項について、当該短期大学が改善を図り、その教育研究活動などの更なる向上・充実に努めることを期待する。なお、本欄の記載事項は、各基準の評価結果（合・否）と連動するものではない。

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

[テーマ C 自己点検・評価]

- 年度ごとの自己点検・評価活動及び報告書の作成と併せて、学習成果について全学レベルで検討し共有し合う仕組みを作り、全学一丸となった教育改革が一段と促進されるよう取り組まれない。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

[テーマ A 人的資源]

- 職員研修会や職員研修発表会など、SD 活動は実施されているが、SD 規程等を整備することが望まれる。

[テーマ B 物的資源]

- 防火・防災管理については、自己点検・報告書に課題としてあげられているとおり、消防計画に基づく全学的な訓練を実施されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 基準別評価結果

以下に、各基準の評価結果（合・否）及び当該基準を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	基準	評価結果
基準Ⅰ	建学の精神と教育の効果	合
基準Ⅱ	教育課程と学生支援	合
基準Ⅲ	教育資源と財的資源	合
基準Ⅳ	リーダーシップとガバナンス	合

各基準の評価

基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

「悠久不滅の生命の理想に向かって精進する」という建学の精神は、学則にも「教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、悠久不滅の生命の理想に向かって精進する豊かな人間愛と科学的知性を備えた人間を育成することを目的とする」と規定されている。ウェブサイトをはじめ、大学案内や各種印刷物で公表し、学生には入学式学長式辞で知らせるとともに、ガイダンスやオリエンテーションにおいて具体的な説明が行われている。

各学科の教育目的は、建学の精神・理念に基づき、学則に記載されている。

学科の学習成果は、建学の精神・理念及び学科の教育目的・目標に基づき、明確に示され、学内外へ表明され、定期的に点検が実施されている。

学習成果を量的・質的データとして測定する仕組みについては、成績評価や GPA 等の学科共通の仕組みと、学科ごとに実施する測定の仕組みがあり、学習成果の可視化がなされ、到達目標型学習システム等の構築が目指されている。

学習成果の査定は、学科レベル、科目レベルで行うほか、全学レベルでは、共通科目の目的である「基礎的人間力」を測るため、入学時の「自己発見レポート（大学生基礎力調査Ⅰ）」や、1年次後期及び2年次後期の「社会人キャリア力育成アセスメント」が活用されている。さらに、学生アンケートが各種実施され、教育の向上・充実のための PDCA サイクルの構築に取り組んでいる。今後は、全学的に統一して学科レベル、全学レベルで教育の効果をどのように測り、課題をどのように見つけ対処していくのか、検討されたい。

各種法令の改正に合わせて学科会議、教学委員会、教授会などで検討を重ね、教育課程の改正等に対応し、法令順守に努めている。

自己点検・評価及び第三者評価に取り組む体制を強化するため運営戦略本部を設置し、その下に比治山大学評価委員会を置いて点検・評価活動を実施し自己点検・評価報告書、授業改善事例報告書を作成している。各種アンケート調査の実施、授業改善事例報告書の作成には全教員が関わり、教員研修会（FD）や各学科での教員研修会（FD）において授業改善に活用している。

相互評価にも積極的に取り組み、平成 22 年度に金城大学短期大学部美術学科と美術科において、平成 24 年度には京都光華女子大学短期大学部こども保育学科・ライフデ

デザイン学科と幼児教育科・総合生活デザイン学科間で相互評価を実施し、教育内容の充実につなげている。

また平成 28 年に開学 50 周年を迎えるに当たり、地域社会との連携を深めつつ、教育研究の更なる質的向上を推進し、活力ある地域社会の発展と国際平和に貢献できる人材育成を目指して、平成 22 年から平成 28 年にかけての中期総合プランを作成している。建学の精神・理念を踏まえたミッションやビジョンを基に、「学生視点に徹した教育の推進」、「学生の自己成長と人間力の形成」を促す大学・短期大学の基本方針や行動計画を定め、教育改革が加速されている。今後は、年度ごとの自己点検・評価活動及び報告書の作成と併せて、学習成果について全学レベルで検討し共有し合う仕組みを作り、全学一丸となった教育改革が一段と促進されるよう取り組まれない。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

学位授与の方針は各学科とも明確に示しており、学習成果にも対応している。この方針は、ウェブサイトや各種の印刷物で内外に表明している。

教育課程は、3 学科共通の比治山ベーシックと教養教育からなる共通教育と各学科の専門教育から構成されている。共通教育を含む各学科の教育課程は学位授与の方針に対応している。カリキュラム・マップも作られ、それぞれの学習成果にも対応している。教員は資格・業績に対応して配置され、教育課程の見直しも教学委員を中心に行われている。

学習成果は、学科の教育目標に示すほか、講義概要に到達目標等を分かりやすく明確に記載している。学習成果の査定は、基本的には学期末試験、レポート、制作物、授業態度・参加状況などを判断材料とし、成績評価と GPA とによって行われている。

卒業後評価は、実習での訪問指導に出向いた時など、各学科で実習先や就職先から卒業生の情報を集めて教育の充実改善に生かしている。今後は、卒業後評価に組織的に取り組み、学科レベル、全学レベルで教育改善への課題を見つける工夫が望まれる。

学生は学習成果の可視化によって自分自身のスキルを随時確認でき、授業担当教員とチューターが、ウエルネスセンター職員等とも連携を密にして、学生の学習面、生活面への支援を行っている。また図書館、マルチメディア演習室、情報処理演習室、コンピュータ自習室、CG 演習室等の情報機器については、専従の職員を配置し、学生指導や日常のメンテナンス、緊急対応等を行っている。

学習支援については、各学期の始めに行うオリエンテーションで履修の説明を行い、チューターが学生個々の学習計画を立てさせて、学習成果の獲得に向けての指導を行っている。またウエルネスセンターや心理相談センターなどと協力して学生をサポートしていく体制ができている。

学生支援については、教員を中心とした学生委員会等の学内委員会、事務組織としての学生支援室が中心となり、個々の学生を担当するチューターと連携して、全学が協力して実施している。チューターは、「学生情報システム (Hi!way)」を活用して学生支援室、キャリア支援室などと情報を共有している。

就職支援は、併設大学と合同のキャリアセンター及びキャリアセンター運営委員会、

チューターが連携しながら行っている。

入学者受け入れの方針については、大学案内に明記され、学生募集要項にも各入試の概要、日程、選抜方法とともに明示されている。この方針に従って4形態の入学試験が公正かつ厳正に行われ、合格者には入学前教育の各種プログラムが用意されている。入学後には、4日間のオリエンテーション、学科ごとの学外オリエンテーションも用意されている。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

短期大学設置基準に基づき各学科の教員組織が編成され、チューター制度が十分機能する体制となっている。教員の採用、昇任に関しては規程に基づき適正に行われ、多様な雇用形態により、教育研究の活性化・高度化を実現している。

専任教員の研究活動については、個人研究費や共同研究助成の規程も整備され、学内では紀要や幼児教育研究会誌『和顔愛語』があり、また、外部研究費等も獲得し、研究活動の成果もあがっており、ウェブサイト公表されている。専任教員の研究室が確保され、留学、海外派遣、国際会議出席等の規程も整備されている。規程にそって全学教員を対象とした教員研修会（FD）を実施し、学科単位では教員相互の授業公開を行っている。教員はいずれかの委員会に所属し短期大学の運営に関わっている。

事務職員の責任体制については、規程において事務分掌や職制が明確化され、規程集及び業務に係わる書類はグループウェアへ掲載し、規程により事務処理を行っている。消防計画、比治山大学危機管理マニュアルを定め周知している。職員研修会（SD）及び職員研修発表会を開催し、大学職員として能力開発や知識の共有化を図っているが、SD規程の整備が望まれる。人事考課制度を導入して組織の活性化と個人の力量アップを図っている。教職員の服務に関する諸規程の制定や改廃は随時行い、教職員に周知している。

校地・校舎は短期大学設置基準を充足し、運動場・体育館・図書館も整備されている。ただし、校舎の耐震対策は平成23年度から順次実施される予定であったが、学科改組の関係で未実施のため、計画どおり改築を含む耐震補強工事について検討されたい。施設設備についても、教育課程編成・実施の方針及び法令に基づいた演習や実験・実習・実技室を整備し、機器備品や物品も整備している。併設大学と共用の図書館は蔵書数も豊富で、ラーニングコモンズとしての学習空間の実現に向けて学習支援機能の充実が図られている。今後、バリアフリー改修や情報機器・ソフトの更新などについて、財政的な面を考慮しながら計画的に進めることを課題としている。

規程に基づき固定資産、物品及び施設設備を維持管理し、定期点検による安全管理を行い、危機管理マニュアルも作成している。防火・防災管理については、消防計画に基づく全学的な訓練を実施されたい。

学生が使用する学内LANについては、マルチメディア演習室・情報処理演習室、CG演習室に整備されており、学内LANを使った様々な授業が展開されている。また、各研究室にパソコンを1台ずつ整備し、教員は「学生情報システム（Hi!way）」から学生の成績等を把握し、学生支援を行い、学生も履修登録や成績の確認を行うことができ

る。

財的資源の管理について、学校法人全体・短期大学部門共に財政状況は健全な範囲で推移しており、教育研究経費比率も適正である。財政の安定確保について、学校法人として、人件費抑制と管理経費削減により、収支均衡を前提にした教育研究資金の充実を目指す方針が明確化している。また、学園独自の奨学金制度については、あらかじめ配分額を設定し、教育研究に支障がない制度としている。

基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

理事長は、建学の精神に基づき理事会や経営会議においてリーダーシップを発揮している。また、理事は寄附行為に基づき構成されている。

学長は「比治山大学・比治山大学短期大学部学長選任内規」により、理事長が学長候補者選任理由及び教授会の意見を付して学長選任案件を理事会へ提案し、理事会の承認を受け、任命されている。学長を本部長とする運営戦略本部では、諸課題に対して迅速かつ的確に対応し、戦略的な課題についての企画立案及び調整を行っており、運営戦略本部で企画立案した事項は、教授会の審議過程において説明を行い教職員の理解を得ている。教授会は、学長のリーダーシップの下、審議機関としての機能を適切に果たしている。

監事は、監査規程に基づき「業務監査」と「財務監査」に区分して適切に監査を行っている。理事会・評議員会にも出席し、毎会計年度、監査報告書を理事会及び評議員会へ提出し監事意見を述べるなど、監事としての業務は適正である。

評議員会は、理事定数の2倍を超える評議員で構成され、予算・決算時以外にも臨時開催がなされ、理事長の諮問機関としての機能を適切に果たしている。

中期計画を基に予算編成方針が立てられ、関係部門のヒアリングを経た年間事業計画及び予算原案が評議員会に諮られ、理事会で議決され、関係部門に指示している。日常的な出納業務はシステム化され、適正に行われ、計算書類、財産目録等は適正に表示している。資産管理と運用については、固定資産管理システムを導入して台帳で管理しており、適正である。寄付金の募集も適正であり、月次決算も適正に処理されている。財務情報及び教育情報はウェブサイト公開・公表されている。

選択的評価結果

本協会は、短期大学の個性を伸長させることを目的として、「教養教育の取り組み」、「職業教育の取り組み」、「地域貢献の取り組み」という三つの選択的評価基準を設けている。これらの三つの取り組みは4基準にも含まれているが、各短期大学の取り組みの特色がより鮮明になるよう、4基準とは別に設定した。

選択的評価は個々の短期大学の希望に応じて実施し、課外活動も含め、それぞれの独自性が一層発揮されるよう当該短期大学の取り組みの達成状況等について評価を行った。

教養教育の取り組みについて

総評

併設大学現代文化学部と合同で共通教育を編成、実施し、「心を見がき、視野をひろげ、地域に生きる」をモットーとして、生涯にわたって、自己実現を支える主体的な学びをデザインし実践する力としての「基礎的人間力」を育成することを共通教育の目的としている。その目的を成就するため、共通教育を「比治山ベーシック科目」と「教養科目」の2つに区分している。前者はスタートアップ・キャリア形成・コミュニケーションリテラシーから成り、後者は「心を見がく」、「視野を広げる」の2領域から成り、各々、「人間」、「文化」及び「地域」、「国際」の4分野に区分されている。

これらに対応する内容も確立され、例えば、スタートアップの授業科目「初年次セミナー」は、「自己発見レポート（大学生基礎力調査Ⅰ）」の実施と解説、レポートの書き方などの全学共通の内容に、学科ごとの独自性を加えた内容となっている。学科のチューターを中心に少人数クラス編成で授業を担当し、その教員が授業外でもチューターとして学生生活全般にわたって指導、助言を行って、可能な限りのきめ細かな学生支援ができるようにしている。

当該短期大学と併設大学現代文化学部の専任教員の大部分が、教養科目を担当する体制をとっている。教養科目の運営、実施については、当該短期大学と併設大学の各学科から選出された教学委員を中心とした教学委員会が担っている。教学委員会の中に各専門委員会を置いて、企画、運営している。共通教育の教育方法については、語学等では習熟度別のクラスでより教育効果があがるようにしている。「教養科目」は、アクティブ・ラーニングを重視し、学生が主体的に参画できる授業を多く導入し、学外での施設見学や制作、フィールドワークなどを行っている。

共通教育の効果の評価については、毎年度末に各授業科目のアンケートとは別に全履修者に「共通教育に関するアンケート」を実施し、その結果を全教員に配付するとともに、その結果について教学委員会で検討している。また、「比治山ベーシック科目」の「スタートアップ」、「コミュニケーションリテラシー」は、各専門委員会がその成果と課題に関して教員研修会で報告し、成果と課題の共有化を図っている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 「比治山ベーシック科目」のスタートアップの授業科目「初年次セミナー」は、少人数クラスで各学科チューターが担当し、「HIJIYAMA 手帳」を使い、学生生活全般にわたる支援を行っている。
- 「教養科目」の「天水講座」は建学の精神・教育理念と関連させたもので、オムニバス形式で実施されている。
- 「ひろしま学」等地元広島を多方面から学ぶ科目や各専門分野からの視点で人間と生命を考える「人間と生命」など豊富な科目が開講されている。

職業教育の取り組みについて

総評

「職業に必要な能力を育成する」ことを短期大学の責務と捉え、学位授与の方針を定め、職業教育を行っている。キャリアにかかわる知識、技能は学科を問わず短期大学生として共通と捉えて、共通教育にキャリア教育を位置付けている。キャリア形成専門委員会を教学委員会内に置き、基本方針を策定し、キャリアセンターがその実際の運用を担当している。

高等学校から短期大学への円滑な接続を図るために、AO入試による早期の入学決定者に対して「スタートアッププログラム」を実施している。これは講義・実習以外にも課題提出・発表等を通して、新年度からの専門教育を理解し、学生生活のスムーズなスタートを図るもので、入学後は1単位が申請により認定されている。

平成21年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラムに採択された「学生一人ひとりに対応した全学的なキャリア形成支援体制の構築」の取り組みは、①キャリア形成科目でのアセスメントの実施及び診断結果の活用、②キャリアカウンセラーによる就職・進路相談の実施、③キャリアカウンセラーによる企業訪問活動、④資格取得支援講座・就職筆記試験対策講座等の提供、⑤継続的個別支援のための電子ポートフォリオシステムの開発・運用、⑥保護者との連携強化のための保護者会開催、⑦就職支援のためのガイドブックの企画・作成、⑧教員のキャリア形成支援スキル向上のための教員研修会（FD）の開催である。

各学科においても職業を見据えた教育に取り組んでおり、幼児教育科は保育者の育成を目的とし専門科目の履修が職業教育に直結している。総合生活デザイン学科は、生活創造コースでは秘書士資格認定証の取得を目指し、さらに栄養士養成コースでは栄養士免許、栄養教諭の取得を目的としている。美術科、特にデザイン分野では会社見学などを授業に取り込み、インターンシップ制度も定着し、専門就職を意識した授業内容を模索している。

社会人を対象とした社会人特別入試制度を設け、長期履修学生制度も導入した。

また、幼児教育科では「キッズサポートシステム Kiss」事業の取り組み、総合生活デザイン学科栄養士養成コースでは、「栄養士業務支援室」を設置し、リカレント教育を行っている。美術科では生涯学習センター主催の公開講座や「土曜ワークショップ」

などを開催している。

入学時の「自己発見レポート（大学生基礎学力調査Ⅰ）」受験のほか、「社会人キャリア力育成アセスメント」を継続して実施し、学生個人の社会人基礎力等を能力別にレーダーチャート化して「学生情報システム（Hi!way）」に保管し、指導に活用している。「就職活動支援プログラム」アンケート、「卒業生対象アンケート調査」により職業教育や支援体制の検証を行っている。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 平成 21 年度大学教育・学生支援推進事業の採択を受けて構築した学内支援体制の内容はキャリア形成科目でのアセスメントの実施をはじめ、資格取得支援講座等の提供、継続的個別支援のための電子ポートフォリオシステムの開発・運用などで、さらに、学科の特性に応じた取り組みがなされている。
- リカレント教育として、幼児教育科では保育者対象の「キッズサポートシステム Kiss」事業の取り組み、総合生活デザイン学科栄養士養成コースでは、管理栄養士国家試験対策のためのセミナー、美術科では「土曜ワークショップ」等を実施している。
- 「自己発見レポート（大学生基礎力調査Ⅰ）」などの診断結果も「学生情報システム（Hi!way）」に保管され、学生の学習成果の可視化ともなり、就職相談の資料としても活用されている。

地域貢献の取り組みについて

総評

公開講座は、生涯学習センターを中心に併設大学と共催して実施されている。平成 25 年度は 20 の講座を実施し、延べ 2053 人が参加した。公開講座は独自のものに加え、地域の美術館、テレビ局、公民館などとも連携して行っている。

正規授業の開放については、平成 24 年度までは共通教育科目の「天水講座」を地域社会に開放していた。

地域社会との交流は、立地する牛田地区や広島市東区との連携事業が挙げられる。牛田公民館との連携で、平成 20 年度以来「牛田カレッジ」として講演をしている。広島市東区とは、併設大学、広島女学院大学とも連携し「東区役所ふれあいミニコンサート」を開催し、まちづくりに関しての包括的な連携を行っている。また広島市と「広島市におけるメディア芸術の振興等に関する協定」を締結し、委託研究としてアニメーションやマンガの指導教本の作成などを行っている。商工業等、地元企業とは、地産地消推進のための連携協力を結び、文化施設とは、美術館・博物館との連携事業が毎年実施されている。

教職員や学生のボランティア活動については、学科の特性を生かして様々な活動が行われている。幼児教育科は、広島市のこども療育センターや障害児施設、保育施設での保育ボランティアのほかに、地域の子育て交流広場「ぼっぼひがし」の運営やイ

ベントに教員や学生が継続的に参加している。また、総合生活デザイン学科は、子どもたちの栄養指導や企業との連携で地産地消を生かした新しいメニューの提案や試食会の開催などの活動をしている。美術科は、NPO 法人、広島市との連携事業として「広島国際アニメーションフェスティバル」への運営参加やアニメーションワークショップの開催ほか、様々な場所で似顔絵描き等のボランティア活動を行っている。いずれの活動も学習内容を生かしたボランティアであり、参加する学生にとっても有意義な体験である。

当該短期大学の特色が表れている取り組み

- 生涯学習センターを中心に、併設大学と共同で行われている公開講座は数も多く、実績もあり、満足度も高い。
- 地域社会との交流、連携等の活動は、学生と教職員が一体となり長年にわたって続けられ、教養教育と専門教育の成果とも連携し、活力に満ちた豊かな地域社会の実現というミッションに貢献している。